



町民の方との会話から三点報告します。一点目は、9月5日の「花火大会」の事です。「今年の花火も良かった。来年もやるよね」「新得に嫁に来て何十年もなるけど、あんなに良い花火を間近で見たのは初めて」「有名な花火大会より新得のほうがよっぽど良い」など多くの感想をいただきました。また、花火の打ち上げ前に行われた子供達の笑顔のスライドショーについても多くの方からお褒めの言葉をいただきました。実行委員の皆さん、お手伝いをいただいた関係者の皆さん大変ご苦勞様でした。なお、かかった費用は37万円でしたが、そのうち協賛金など皆さんからの応援が43万円ありました。(町からは335万円)

二点目は27日の「新そば祭り」の事です。今年も皆さんの協力により大勢のお客様が会場に見えられ、盛り上がった祭りになったと思います。関係者の方々に感謝申し上げます。その関係者の方から、祭りの開催中、時間の経過とともに「疲

町長室から こんにちは

新得町長 浜田正利



カラオケ好きの人たちが集まる喫茶店で歌声を披露する藤崎さん

顔のそと

No.406

好きな歌を歌って
適度に体を動かして
それが健康に一番

「歌を歌うのが好きだし、体を動かすのも好き。それが健康の秘訣かな」と話すのは、カラオケ、コース、プール、ノルディックウォーキングなど積極的に活動している藤崎美智子さん。

藤崎さんは、胆振管内の追分町で父親が警察に勤める家庭に生まれ、4人きょうだいの長女として育った。

「父親が警察に勤めていたこともあって転勤族だったので、引越しが多くてね」と小さい頃は伊達市や虻田町などを転々と引越して歩いた。

「小さい頃は引つ込み思案でおとなしい子どもだったんだけど、中学校を卒業する頃に『こんなことじゃダメだ』と思って、それから積極的にするようになったのよ」と話す。

追分の高校を卒業後、札幌の短期大学に進学し、栄養士の免許を取得。苫小牧の病院に栄養士として勤めた。

れたからもう辞めたい。町長手伝って、後日にも「なかなか疲れが取れない」と話されていました。関係者の方々のご苦勞は計り知れ無いものがありますが、皆様の協力により新そば祭りは、毎年、多くのお客様に喜ばれるイベントとして成長し、新得の一大イベントとして定着しました。来年は「そば博覧会」の開催を予定しています。関係者の皆様には今年以上のご苦勞をお掛けすると思いますが、引き続き協力をお願いしたいと思います。本当にお疲れ様でした。

三点目は、戦後70年の節目を迎え、安倍首相からの談話の発表後、国の内外で賛成や反対など様々な評価が出ていました。また、安全保障関連法案の国会での論戦、世論の反応などマスコミを通して様々な事が報道されてきました。今国会閉会後、複数の方と雑談をする機会があり、その中で気になった事を紹介します。新聞報道のあり方として、各新聞によって報道内容に偏りがあり、一紙しか読まない人はその内容が全てだと思いがち、世の中に他の考え方があることに気づかない可能性があるのではないかと。また、政党によっては批判ばかりで国の安全保障について何も語らないでこれで良いのかと多少あきれた感じの話にもなりました。学生の反対行動も意思を表すという意味では良いことであるが、どこまで理解を促して行動しているのかと若干心配な話にもなりました。「戦争をしない」として、「国民を守るため」にどうしていくのか分かります。政治家は国民に伝え、報道機関は偏らない事実を国民に報道してほしいものです。



ふじさきみち子さん (74歳) さくら会

病院に勤めている時に、短大時代の友達で紹介で、高校の先生をしていた保さんと知り合い、23歳の時に結婚し二女に恵まれた。結婚を機に仕事を辞め、旦那さんの保さんが住んでいる網走管内の紋別市に引越した。その後も旦那さんが教師という職業柄、引越しをする事が多く、足寄町や新得町、様似町などに移り住んだ。元々、旦那が新得に住んでいたことがあったので、新得高校に赴任した時に、新得に家を建てたんだよね。でも、また転勤があつて、空き家にして引越したのよ。子どもの頃も引越して歩いたし、大人になつてからも引越しが多かったね。本当にあつち行ったりこつち行ったりね」と笑いながら話す。

趣味は？と聞くと「歌うこと」が好きと話す藤崎さんは、今年10周年を迎える町内のコースサークル「グリーンエコー」に所属している。「コースは中学生の時からやっていて、その時はピアノもやっていたの。グリーンエコーができた時から所属していて、今年

11月に記念公演を予定しているんですよ。その他にも十勝管内のコースグループが集まる発表会などが帯広や清水であるのでこちらにいらっしゃると思います」と話し、週一回の練習には欠かさず参加しているとのこと。

カラオケも月に2回、カラオケ好きのメンバーが喫茶店茶憩夢に集まって、それぞれの好きな歌を披露している。

温水プールにも通っており、「プールができた時から通っていて、途中、膝を痛くした時は休みましたけど、今は泳いだり水中歩行したり週1回は通っています。でもね、泳ぐ方は全然上達しないんだけどね」と笑いながら話す。

ノルディックウォーキングも週1回やっており「去年から屋外のノルディックウォーキングをしていただんだけど、今年からは室内でやる方に変えてやっています。家にいるのが火曜日と金曜日くらいかな。健康のためにも運動しないと落ち着かないのよ。病院の先生にもあまりやりすぎたらダメだよって言われているので、ほどぼどにね」と話す。

「これからも好きな歌を歌って、適度に体を動かして、続けられるうちは続けていきたいかな。あつ、そういうえば体喜操を始めるんですよ」と話す藤崎さんは、とても積極的に活動するお元氣な方でした。

短歌

新得短歌会

長月に心騒ぐは文月に
生受く我が魂宿る記憶か
樋口かおり

九月入り朝しつとりと冷氣なり
この夏もまた様々ありき
小関 白潮

ドンドロ夜空の花火賑やかに
淋しく散るもドラマの様で
小野 恭子

七十年戦後を生きて走馬燈
筆持つ母に感じ入るわれは
菊地 康雄

月の影薄を透し夜もすがら
虫の音色で秋は深まり
荒木 伸一

屈足短歌会

冷んやりと冷氣ただよう夕暮れに
鳥の群れたち古巣に急ぐ
船場 君子

貝ひとつ拾わむとして走りゆき
浪とたわむる釧路の海に
渡辺 征子

道の辺のししうと凜と立ちあるも
秋風吹けば花も色褪す
羽場タカ子

俳句

新得俳句同好会

新芋のポテトサラダを類張りぬ
片桐 波月

読みかけの句集の続き読む夜長
西川 勝仙

亡き友をしみじみ思う虫の夜
八木 育子

事故現場菊供えあり歩を止めり
袴田ゆき男

収穫と名付けて酌むや一人酒
月井 悠峰

秋晴や抱かる赤子の深眠り
高橋 民女

喜寿記念絵画に振れる秋の蝶
大崎かずお

苔生えし庭と語らい米寿の日
奇藤 青苔

竿先の海に撓りや鮭帰る
中島 土方